

シンポジウム開催の御案内

◇惑星科学会に未来はあるか

◇惑星探査の将来

◇日本惑星科学会に未来はあるか

日時：1999年11月14日 14：00～16：00

場所：東北大学工学部青葉記念会館（1999日本惑星科学会秋期講演会会場）

司会：渡邊誠一郎

話題提供：

山本会長 基調講演＋学会財政問題・運営問題レビュー，提案

林祥介 補足

岡田達明 どういう学会が必要か
どうすればそれが実現できるか
今後世界を担う立場の人から
月惑星探査に関わっている若手

阿部豊 どういう学会が必要か
どうすればそれが実現できるか
世界を率いる立場の人から

中澤清 業界上部構造のレビュー
世の中の拘束条件などなど

フリーディスカッション

趣旨

惑星科学会もその成立から7年がたち、立ち上げの熱い時代は終わったといえましょう。少なくない構成員の方々にはそのような時代の記憶もなく、学会というものが何処かの誰か偉い

人・奇特な人が運営してくれる外的組織であって、ほっといても勝手に回っている、悠久の過去に発生し未来永劫存在していることが当たり前であるかのようなものに思えるようになって来たのではないのでしょうか？

しかるに、惑星科学会（に限ったことではありませんが）は、会員がみずからの主体的な意思をもって構成し、構成員自身によって運営していかなければならないものであります。学会はそれぞれの科学的あるいは技術的な活動を展開するための諸々の基盤環境を用意する装置のひとつであるはずですが、構成員がその装置の目的と役割を理解して応分の維持運営活動を積極的に行っていくようなものでなければ、また、そのような構成員によって構成されるものでなければ装置は崩壊せざるをえないでしょう。

現在学会は何のために存在しているのか、誰がどのように運営しているのか、コスト分担はどうなっているのか、今後も学会は必要なのか、惑星科学どのような問題に対してどのような科学的そして技術的展開を期待するために活動を行っていくべきなのか、そのための運営貢献者はいるのか、コスト負担をやって行けるのか、などなどについて議論（要すれば放談会）を行いたいと思います。

活動発表の場（講演会）：

昨今は合同大会がエスタブリッシュして
来たので独立して持つ必要がない？

宇宙研月惑星があるから合同大会と月惑
星だけでよい？

活動発表の場（文章）

EPSもできたからそれもよい？

遊星人を維持して行くのはたいへん？

もっと電気仕掛けのほうがよくない？

業界を張る：

地震学会でもなければ電磁気学会でもな
ければ、..., でもないという活動の枠組
の必要性は変わらない？

それをもとに予算や人(ポスト)を当該領
域に確保していくための装置, 研究基盤,
教育基盤の提言を行っていく装置として
の学会の必要？

装置維持のコストは???

関連業界/学会との関係：

このシンポジウムをもって何をどうするという
のが狙いなのではなく, どういう展開になるにし
る, 会員各員（特に若い人）が自ら運営しなけれ
ばならないという自覚をうながすことが狙いです。
自ら運営する必要が無いようなのであれば, 学会
を維持する必要もないので潰さなければなりませ
ん。必要が無いものを存続させておく程皆さん暇
ではないし, おめでたくもない。

Ask not what the society can do for you.

But ask what you can do for the society.

(J.F. Kenedy 1961)

◇惑星科学会に未来はあるか

この11月に、仙台において地球電磁気・地球惑星圏学会(11月9～12日;仙台市民会館)及び日本惑星科学会(11月13～15日;東北大学工学部青葉会館)が日程を繋いで開催されます。両学会は惑星科学に関して研究領域を共有する極めて近い関係にあることはご承知の通りであります。学会レベルでの直接交流は合同大会への参加を通じての交流以外に未だ行われておりません。しかし最近のPlanet-BやSELENEあるいは水星ミッションなどの月惑星探査ミッションに関わる実活動においては、日常的に学会を越えた共同活動がすでに進められております。このようなときに地球電磁気・地球惑星圏学会と日本惑星科学会の共催の形で惑星探査に関するシンポジウムを持つことは極めて意義深いことであると考えられます。そこで今回のシンポジウムでは、「惑星探査の将来」に関する議論を通じて、両学会がそれぞれどのような研究の展望を持ち、将来の惑星探査にどのように関わって行くべきかについても考える機会となれば、シンポジウムを共催する意義をさらに高めることになると思われます。

つきましてはシンポジウムに出席していただき、積極的に議論に参加していただきますよう、お願いいたします。

1999年9月

地球電磁気・地球惑星圏学会長 松本 紘

日本惑星科学会長 山本哲生

シンポジウムは全て招待講演を予定しております。講演タイトルは仮題であり、変更されることがあります。詳細はホームページ、<http://lapis-lazuli.ganko.tohoku.ac.jp/JSPS99/sympo1.html> をご覧ください。

日時：1999年11月12日 13:00-17:00

場所：仙台市民会館 展示室(暫定案)

プログラム(講演タイトルは仮題)

1. 惑星探査の意義 13:00-13:40
日本における惑星探査の生い立ち
惑星研究実施体制の現状と問題点
2. 惑星探査の現状 13:40-14:15
「のぞみ」ミッションを実施して
月・水星・小惑星探査計画の現状
3. 今後の惑星探査計画
日本の惑星探査の研究戦略 14:15-15:40
惑星ミッションの戦略的開発
研究分野を越えたミッション
工学的課題と可能性
地上観測との連携
サンプルリターンと学会・大学の役割
惑星研究の課題・将来展望 15:40-17:00
超高層大気・プラズマ環境
惑星気象
固体惑星
巨大惑星探査への展望